

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

第44号

October 2005



KEIWA COLLEGE REPORT

敬和カレッジ・レポート

発行／敬和学園大学後援会
敬和学園大学広報委員会



1期生の複数（金山）撮影さん

15周年記念号

「私にとっての敬和学園」 卒業生から15周年に寄せて

創立15周年記念行事のご案内

敬和ボランティアデイ、社会福祉士講座のご報告

JCLPのご報告（台湾から留学生が来ました）

リフレッシュ・セミナーのご報告／セミナー＆コンサートのご案内

秋オープン・カレッジ、敬和祭のご案内

2005



<幻の大学完成予想図>

1987年6月に「敬和学園大学設立準備室」が開設され、同年11月から募金活動が始まったことを受け、その募金趣意書の表紙に使用した大学完成予想図です。当時は、この予想図を見て、四年制大学の設立という漠然としていた夢が、準備室時代から勤務していた者としては、少しあは現実のものとなってきた思い出があります。創立15周年記念誌の作成のため、古い写真を探していって見つけました。
(総務課長 長澤)

もくじ

卒業生から15周年に寄せて	三年生保護者就職懇談会のご報告	8
「探していたもの」1期生 榎並（金山）撮子 … 1	秘書技能検定のご報告	9
「敬和学園は出会いの場」4期生 山田美穂 … 2	英語教員対象リフレッシュ・セミナーのご報告	10
「私にとっての敬和」8期生 村川隆 …… 3	セミナー&チャリティコンサートのご案内	10
「原 点」10期生 後藤伸介…………… 4	秋オープン・カレッジのご案内	11
創立15周年記念行事のご案内 …… 5	1・2年生保護者懇談会のご案内	11
敬和ボランティアデイのご報告 …… 6	寄付者ご芳名／計報	11
社会福祉士国家試験対策講座のご報告 … 7	敬和祭のご案内	12
訪問介護員2級講座のご報告 …… 7	学事予告	12
JCLPのご報告(台湾から留学生が来ました)… 8	キャンパス日誌	13

<表紙写真> 1期生の榎並（金山）撮子さん
「アライカバ友の会」が支援する施設での様子です (P.1)

「探していたもの」

一九九四年度卒業生 榎並 摂子

(主婦、旧姓金山)

「金山先生の授業で英語が好きになりました！」母校佐渡高等学校での二週間の教育実習を終えた日、クラスのみんなから受け取った手紙のひとつにこんなうれしいことが書いてあった。記憶に残る先生になりました！教育実習は楽しく、生徒たちと共にはしゃいでいた。そうはいっても実際に教案を作成し、授業の準備をするのは大変な労力が必要で、「俺は一日酔いでも授業ができるぞ」とふざける担任のT先生を尊敬のまなざしで見つめる私だった。たった二週間であるが、教育実習とは持てる知力、体力フル稼働で臨むべきものだと知った。

敬和学園大学に教職課程ができたのは、私たち第一期生が三年のときだった。本来ならば一、二年で取得可能な基礎科目の授業も三年になつてから受けることになり、勉強量は増え、アップアップの状態であった。幸運にも柴沼先生と益谷先生という素晴らしい指導者に恵まれ、自分でも信じられないくらいの根気と努力で教職課程を終えることができた。やればできるという自信にもつながった。

この達成感を原動力に、卒業後すぐ憧れのイギリスへ渡り、一年間滞在。帰国後、財団法人新潟観光コンベンション協会という市の外郭団体に勤めはじめた私は、少人数の職場のためか、下っ端であるにもかかわらず責任の重い仕事が与えられた。二〇

○二年FIFAワールドカップ（サッカ）では外国人向けの案内所を任せられ、その準備のかたわら県の英語ボランティア講習会で講師を務めたりもした。コンベンション協会では国際会議・学会の誘致活動も行っており、英語ができるということで同行させてもらう機会もしばしばあり、他では経験できないことをたくさん学んだ。

昨年の春、夢であった日本語教師の資格を手にした。仕事を続けながら一年もの間土・日のクラスへ通うのは体力的に辛かつた。受講生仲間との心の交流がなかつたら続かなかつただろう。その日本語教師になるかも知れないチャンスがやってきた。昨年八月のこと、フィリピンでボランティア活動に参加する機会を得た。貧しくて学校に行けない子供たちの学費と給食を支援する「アライカパ友の会」の活動に英語通訳として参加させていただいたのだ。メンバーの中に現地で日本語学校設立を考えている方がいると知り「あわよくばそのまま現地で日本語教師に」と考えていた。

プロの通訳者ではないが、私なりに精一杯やつた。マニラとセブ島のスラムを十数ヵ所訪問し情報交換をして回つた。ある朝早くセブで一番貧しいといわれる地区へ向かつた。そこで目にした光景はあまりにも悲惨であった。違いすぎる彼らの毎日と私の毎日。こらえきれず泣き出す私。

"Yes, they are poor but happy. You don't need to cry, Setsu"といながらそつと抱きしめてくれた現地のシスター。この言葉とともに子供たちの笑顔が飛び込んできた。幸せとは、私たちの感じ方ひとつで変わるもの

貧しかつたのだ。

結局日本語学校の話は私の勘違いで終わった。設立はまだまだ先のことだつたそうだ。そんな早とちりではあつたが、これが転機になつた。アライカパで支援する子供たちはキリストの教えを学びながら学校へ行つている。貧しくとも笑顔いっぱいの日々。気づけばつられてよく笑つていて私がいた。

日本へ帰ると、また仕事に追われる毎日がやつてきた。一〇年後の私は何をしているのだろうか…。そんな私をそばで見守つてくれる人がいて、自然の流れで結婚し退職、もうすぐ一児の母になる。「仕事に生きる女」を氣取っていた私からすれば大変身である。一日一日をとても大切なものと感じるようになった。



教職課程の学生と柴沼先生を囲んで(2列目右端が榎並さん)

15周年に 寄せて

「敬和学園は出会いの場」

一九九七年度卒業生 山田 美穂

(あやめ幼稚園勤務)

私にとつての敬和学園大学での四年間を一言で表すとしたら、それは「出会い」の四年間でした。入学当初、北垣学長（現本学名誉教授）が「大学は出会いの場である」としてこの出会いについて「友人との出会い、師との出会い、学問との出会い、そして真実との出会い」と話されました。私は学長が話された「出会い」を敬和学園大学で身をもつて体験できたのです。

在学中、私は敬和祭実行委員として熱く働きました。「私たちの敬和」という思いもありましたし、創立四年目のまだ若い大学で自分たちの力を試したくもありました。今振り返ると恥ずかしさを覚えるくらいの情熱を持つて、学生間、学生と教職員間、そしてスponサーとなつてくださった企業へと駆け回りました。時には実行委員の間での話し合いが明け方まで続き、部室でそのままたた寝をし、翌朝、職員の方に揺さぶり起こされたことも一度とならずありました。支えてくださった教職員のみなさまには本当に感謝しております。

特に印象に残っているのは、二年生の敬和祭で南米からフォルクローレ奏者を呼び、グランドでキャンプファイヤーをした夜のことです。この時の友達とは、密度の濃い時間を通して友情を深め、生涯の友といえる関係を築き上げることができました。いつ、どこであつても「私たちの敬和」

がよみがえるいい仲間たちです。

私の姉も敬和学園大学の卒業生です。姉は卒業後、教育現場において敬和で培った精神と情熱を持って高校生の教育に取り組んでいました。教育の理想と現実との狭間で悩む姉と教育について話し合うことが多くなり、私自身も教育についての考えを強く持つようになりました。日本の社会では「成功者」と呼ばれる目には見えない枠があること、その枠に入れられてしまった多くの子どもたちが本当に行きたい方向を見つけられないまま過ごしてしまう、またはあきらめてしまうこと。特に姉が向き合った高校生たちのように、十五、六年もの間、自分に自信が持てずに成長してきた子どもたちに、自分を愛しなさい、自分に自信をもちなさいと伝えるのは簡単ではないこと。もっと、自分らしく生きてほしい、個々に与えられたすばらしさを感じてほしいと考えはじめ、私がたどり着いたのは、人間形成の場である幼児教育の大切さでした。幼児教育を学びたい、携わりたいと強く思い、国際文化学科の永野先生（現明治学院大学教授）からのご指導をいただき、卒業後、玉川学園大学で幼稚園教員免許を取得し、現在の私があります。



園児たちとともに

れずに、「あなたらしさ」が十分に發揮できる保育、自分自身のよさや他からのたくさんの愛情に気づく保育、互いに認め合い、支え合う心を育てる保育をしたいと思い、日々子どもたちと関わっています。逆に、子どもたちから教わることも多くあります。初めて受け持つた子が卒園するときに「大きくなつたら美穂先生のような先生になりたい」と話してくれました。私自身も子どもたちに認められ支えられながら教師として子どもたちの前に立たされていることに気づかされています。

敬和学園大学で与えられた「友人との出会い、師との出会い、学問との出会い、真実との出会い」に心から感謝し、たくさんの人たちに支えられて踏み出せた道にこれからも感謝と誇りとをもつて歩んで行きます。

15周年に寄せて

「私にとつての敬和」

一一〇一二年度卒業生 村川 隆

(新潟交通株勤務)

「私が大学生になつたのは…」、もう思ひ出すのにも苦労するくらいに年月が経つてしまつてゐる。初めての一人暮らしのためにいろいろなものを揃えて、意氣揚揚と住みはじめたアパートは月額一万円のボロアパート。風呂はなくトイレは俗に言う“ぼつとん便所”。三日に一回くらいのペースで銭湯に行き、台所で頭を洗つたり、濡れタオルで体を拭いたこともあつた。住むには多少の不便さはあつたがそれでも特に問題はなかつた。初めて親元から離れ、友人たちとも離れて暮らすことに多少戸惑いを感じ、なんとなく寂しい、でも楽しいみたいな複雑な心境だつたことを思い出す。

はじめは勉強なんて手に付かなかつた、というより勉強は二の次だつた。私の主な仕事は遊んで、飲んで、バイトすることで、ほとんどそれらに没頭していたような気がする。もちろん最低限の出席率と成績は保つた。今振り返ると私がそうやつてきたことは意味があつたし、少なくとも、なくしてはならない要素の一部になつてゐる。だからこれでよかつたんじやないかと思つてゐる。と言う訳で、私にとつて当時の「遊び」で心に残るもの紹介する。

特に自分の時間を割いて没頭したのはボランティア活動とアルバイトだつた。当時していたボランティアはAFSという名の活動団体で友人の勧めで参加した。はじめ

は人たちはも離れて暮らすことに多少戸惑いを感じ、なんとなく寂しい、でも楽しいみたいな複雑な心境だつたことを思い出す。

は見るだけのつもりで毎週一回のミーティングに参加したところ、いつの間にかスタッフになつてゐた。その経緯はよく覚えてないが、これがすごく興味深くて楽しいものだつたことを覚えている。活動内容はAFS団体を通して日本にやつて来る留学生のサポート及び、日本の高校生が彼らと交流を持ち、何かを学べるイベントを計画することだつた。来日して一刻も早く周辺環境に馴染んでもらうべく新潟市を案内したり、高校生との交流を持たせるために大きな規模のキャンプを催したり、活動資金を得るために大きな屋敷の掃除に行つたり

と、いろいろな活動をした。それらは奉仕しているという意識ではなく、むしろそこには自分の学びたいことが山ほどあり、毎回刺激を求めて参加していく感覚に近い。私にとってボランティアはAFSという名の当にラッキーな経験だつたし、もちろんその



職場の仲間たちと（左端が村川さん）

後の自分に役立つてゐるので思い出深い。一方、アルバイトもいろいろやつた。私の場合目的はただ一つ。単純にお金が必要だつた。それもかなりの額の。それは物質的な欲求を満たすものではなく、その先にある海外への憧れであつた。私は四年次にワーキングホリデーを利用してニュージーランドに約一年間滞在した。敬和学園はとにかく外国への関心が高い。また英語を学ぶ環境も充実していた。その刺激から迷わず外国行きの決心がついた。私は国際文化学科だつたがそれでも最低限日常で必要な英語は身についた。そもそも英語の授業は楽しかつたし、敬和は外国人講師が充実しており、授業内容はアイディアに富んでいた。お陰で幼児レベルの私の英語が日常会話レベルにまで飛躍的に伸びた。そんな訳で昼間は英語を中心に国際文化を少々、夜は海外渡航資金のためにアルバイトをして、念願の外国へと辿り着いた訳である。ニュージーランドでは、がむしゃらに一年間を過ごし、貴重な経験をすることができた。そんな学生生活があり、今気づけば社会人として半人前ながらも働いている自分がいる。大学で学んだ国際力を活かし、望んでいたエアラインの仕事に就き、そこそこ多くの英語も使うし、国際文化学科で学んだ異文化への理解も大いに役立つてゐる。大学時代に培つた「遊び」とは、大学が、仲間が、そして家族がつくつてくれた環境の中で学んだ人生勉強だつた。私にとつての敬和、そして学生生活は大学という枠を越えて、四年間を思いつきり自分のために費やした勉強の場であつたと振り返つて思う。

15周年に 寄せて

「原点——夢と力を与えてくれた場所」

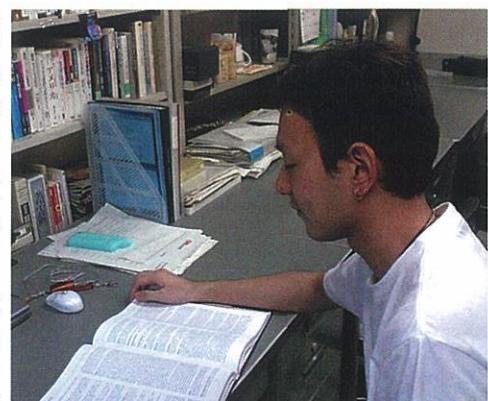
一〇〇二年度卒業生 後藤 伸介

(新潟大学大学院学生)

「これは腐れ縁かも」敬和学園大学への入学が決まった時の、僕の正直な気持ちだった。敬和学園高校を中退し、外国で約一年間暮らした後、高卒と認められるか不安のあつた僕を受け入れてくれた唯一の大学が、敬和だった。かつて自分が背を向けた学校に再びお世話にならうとは夢にも思わなかつた。もう五年以上も前のことだ。

ハツキリ言って目的も希望も何にもなかつた。楽しかつたニュージーランドでの二年間が終わり、日本に帰ってきた僕は抜け殻同然、敬和に対し何の期待もなかつた。親のスネかじつて何やつてんだか、と自嘲しつつ、それでもせつかく大学に入ったのだからと、取りあえず申し訳に教職は取るうと思った。何もしたくはなかつたが、何かしなくちやいけないと焦るばかりで、本当に自分のやりたいことが見つからないまま、キャンパス・ライフを楽しむだけ楽しんで四年間が終わるのかなあ、とほんやり考えていた。そんなものでした、最初は(笑)。そんな僕が文学にのめり込んだのは、一年生後期に松崎先生の「英米文学入門」という講義を受けてからだった。子供のころから本は大好きだから、文学に興味を持つのはごく自然なことではあった。でもこんなに夢中にさせてくれるとは思わなかつた。取りあえずシェイクスピアとヘミングウェイから入つて、面白いんだか面白く

くされていった。図書館の文学のコーナーは全部読み尽くしてやる!くらいの勢いで、寝る間も惜しんでガツガツ読んだ。文芸作品の乱読や速読はあまりいい読み方ではなかつたけれど、よかつたなと思うのは、日本文学にも興味を持てたことだつた。外国での楽しい思い出が鮮明過ぎるあまり、故郷である日本を軽視していた僕にとって、これは思わず進展だった。外国というフィルターを通して、初めて自分の國のよさが分かつたような気がした。回り道した甲斐があつたのかもしれない。それから小説を読むだけでなく、自分でも書くようになつた。すばらしい作品には人を感動させ、時には勇気づけ、心の支えとなる強烈なパワーがある。そんな作品を僕自身も書きたい、読んでくれる人なんかほんの少しでもいいから、彼らにとつて何らかの支



大学院にて文学に没頭する

えたなれる作家になりたい、そう強く思うようになった。創作は僕にとって趣味であると同時に、就職活動でもあつた。もちろん今でも。

文学だけじゃなく、他にもいろんなことをした。三年生のはじめに、バンドを結成し、週末はいつもメンバーで集まつて練習していた。大学のテニスコートがタダで使えたので、テニスもよくやつた。今思えば三年生の時が一番アクティブだつた。三年生終了までに卒業に必要な単位を全部取ろうとして相当タイトな時間割を組み、月曜から土曜の午前までびっかり授業を受け、教職科目もこなし、アルバイトも週一、三回やり、読書、創作そして週末のバンド練習。安息日の全く無い日々でした(笑)。でも仲間と一緒にがんばついたから不思議と辛くはなかつた。彼らとはお互いに笑い合ひ、支え合い、時には憎み合つたことも。今思えば、敬和の四年間で出会つた人たちとは、一人の例外もなく僕の財産になつてゐる。

現在、僕は新潟大学大学院でアメリカ文学を専攻している。「もう僕には文学しかない!」と決心してからは、敬和での教職もあとちよつとのところで辞め、今に至るまで自分の目標、だけに全力を注いできた。こんなワガママ放題の僕の人生を支えてくれた、僕の周りの全ての人たち、そして敬和に、今、心から感謝したい。本当に、ありがとう。この道でどこまでやれるかは分からないが、敬和という原点で培つた文学への想いと、仲間と一緒に努力した思い出が、最後まで僕を動かしてくれるはず。

創立十五周年記念行事のご案内

「住民参画型のまちづくりを考える」

本学の創立十五周年を記念し、「住民参画型のまちづくりを考える・新・新発田市の福祉まちづくりと大学の地域貢献を考える」と題したセミナーを新発田市との共催で開催します。講師には、地域福祉学研究の第一人者である大橋謙策先生と新発田市の片山吉忠市長を講師にお迎えします。

地域における福祉と大学の役割を見つめる絶好の機会となっております。

今回の講座は十五周年を記念して参加無料となつておりますので、ふるつてご参加ください。

日 時 十月十五日（土）

十三時二〇分～一七時

会 場 新発田市地域交流センター

基調講演

I. 「住民参画型の福祉まちづくりの現状と課題」

大橋謙策 先生

（日本社会事業大学学長、

日本地域福祉学会会長）

II. 「新・新発田市のまちづくりのあり方と課題」

片山吉忠 新発田市長

公開シンポジウム

「住民参画型の福祉まちづくりを考える」

お問合せ、お申込み

敬和学園大学 教務課

電話 ○二五四（二六）一二五〇九

人文社会科学研究所主催講演会

本学の創立十五周年と本研究所の開設五周年を記念し、ジェンダー文化史の第一人者である若桑みどり先生を講師に迎えて講演会を開催します。戦後六十年に、戦争当時の映画、絵画、マンガ、音楽、大衆文芸から戦争の真実を見つめていきます。

日 時 十一月十二日（土）

十四時～一六時三十分

会 場 敬和学園大学S二三十一教室

講 演 「あなたは戦争を知っているか」

若桑みどり先生

（千葉大学名誉教授）

対 談

若桑みどり先生、

加納実紀代 本学教授

また、本学研究所内の共同研究グループの公開学術講演会を開催します。

日 時 十月二十六日（水）

十五時～一六時三十分

会 場 敬和学園大学S二十一教室

講 演 「社会福祉の比較思想的背景」

小泉仰先生

（慶應大学名誉教授）

いずれの講演会も参加無料となつておりますので、ふるつてご参加ください。

お問合せ、お申込み

人文社会科学研究所事務局

電話 ○二五四（二六）一三九四

十五周年記念写真集と総はがきについて

本学創立十五周年を記念し、本学の創立前から近年までの写真をとりまとめた冊子「写真で綴る 敬和学園大学十五年のあゆみ」を現在製作しております。開学前の準備室の風景をはじめ、十五年間にわたる大学の様子、そして大学と地域との関わり等がわかる資料となる予定です。

また、大学や地元新発田市、聖籠町の風景を画家の藤井克之さんに描いていた大いな墨彩画を五枚一組にまとめた「絵はがきセット」もあわせて制作しております。いずれもご希望の方に実費で販売しますので、左記要領にてお申込みください。

《申込方法》

次の二点を申込先まで「郵送ください。
①代金（為替でもかまいません）
②ご希望の品と送り先を明記した紙

※ いずれも郵送料を含んだ金額です。

《申込先》

敬和学園大学給務課

〒九五七一八五八五 新発田市富塚二二七〇
電話 ○二五四・二六・三六三六

※ 直接窓口でお受け取りいただくこともできます。

敬和ボランティアデイのご報告

本年も開学以来の伝統であるボランティア実習を七月六日に行なうことができました。

一年生全員が基礎ゼミごとに各施設を訪問し、一日ボランティア学習を体験しました。受け入れ施設のみなさまには例年のことながら深いご配慮をいただき感謝いたしております。

学生たちは、山崎ハコネ先生の「ボランティア論」でボランティアの基礎理論を学び心構えを身につけ、池田しのぶボランティア・コーディネーターの助言のもと綿密な準備を行った上で実習に臨みました。実習を終えた時に施設に通つておられる障害者の方から「また来てね」といわれて泣きそうになつた、という感想を残した学生もいます。心に残る暖かい思いが、本物のボランティア精神へと育つていくことを祈ります。
(ボランティア委員会)



「つきおかの里」のみなさんと（於：福島潟）

地域におけるボランティアの果たす役割

英語文化コミュニケーション学科二年

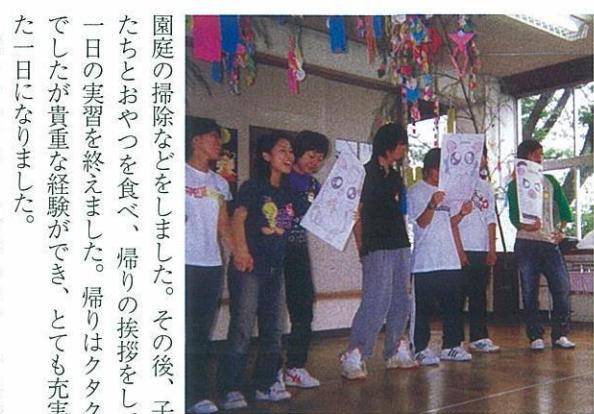


伊藤 孝朗

今回、新発田市にある三の丸保育園のご協力を得て、基礎ゼミでボランティアに臨みました。

活動の計画は、二ヶ月ほど前から練り始めましたが、その時はまだ先の話となかなか進みませんでした。ほとんど何も決まらないまま、実習先に打ち合わせを含めた挨拶に行きました。そこで保育園の職員の真剣さや私たちの実習に協力してくれる姿勢を見て、大学を一歩出ればそこは社会だということに気づかされ、この実習に中途半端な気持ちでは臨めないといました。いくら「ボランティア」だからといっても、それには相手が絡んでくるので迷惑はかけられません。ボランティアをする以上無責任なことはできないという自覚を持ち、改めてゼミで話し合いをしました。

当日は、保育園の職員への打ち合わせを含めた挨拶から実習が始まりました。保育園ではとても元気な子供たちが待つていって、あらかじめ割り振つておいた年齢の子供の部屋で一緒に遊んだ後、歌と演劇を披露しました。子供たちがよく知っているハム太郎の歌と、それを題材にした劇だったので、子供たちも楽しんでくれたと思います。その後再びそれぞれの部屋に戻り、本の読み聞かせなどをしてから、一緒にお昼を食べました。お昼が終わると子供たちはお昼寝の時間なので、その間に私たちは



ハム太郎の歌を披露

園庭の掃除などをしました。その後、子供たちとおやつを食べ、帰りの挨拶をして、一日の実習を終えました。帰りはクタクタでしたが貴重な経験ができ、とても充実した一日になりました。

ボランティアと一言でいつても、去年起きた中越地震の時のように災害復興を目的としたものから、今回のように身近な地域での活動まで様々なものがあることを、この実習や講義を通して学びました。今までボランティアという言葉はよく耳にしてきましたが、実際どのようなのかよく分からませんでした。しかし今回の実習を経て、子供たちの笑顔や職員の「ありがとう」の一言がとてもうれしく思え、「これがボランティアをする人の原動力になるのだな」と思いました。実習後、聖籠町の蓮野小学校への英語ボランティアに参加するようになりました。そしてこのような地域においてボランティア活動が、自分たちの生活の場をよりよくすることにつながるのだと感じました。

社会福祉士国家試験合格に向けての第一歩

去る七月二十六日、共生社会学科の一年生を対象とした社会福祉士国家試験対策の特別講座が開講されました。

新潟県社会福祉士会会長の松山茂樹先生から、国家試験についての具体的な話ををしていただきました。難しい試験ですが、合格するためには目的意識を持つことが重要であると強調されていました。社会福祉の専門科目をまだ学んでいない一年生にとっては、難しいところもあつたと思いますが、これからチャレンジする国家試験のイメージがつかめたと思います。

また、社会福祉士として活躍している小林祐介さんや真田里美さんから、国家試験の合格に向けた体験談などの貴重なお話をいただき、早めの取り組みが重要なとのアドバイスをいただきました。今から一歩一歩準備を進めていきたいものです。

(共生社会学科 青山)

<社会福祉士資格取得まで>

社会福祉士資格（登録）



社会福祉士国家試験



科目的履修
(受験資格の取得)

※ 昨年度の国家試験の合格率は29.8%です。



共生社会学科一年
小池 紗依子

社会福祉士対策講座を受講して

訪問介護員一級講座を開催しました

地域のみなさま 対象

社会福祉士制度の意義や国家試験対策、指導員として働いている方のお話を聞くことができたこの講座は、社会福祉士を目指す意味を確認することができ、大学生活をいかに充実させるかを考え、とてもよい機会になりました。

私は将来、知的障がい・自閉症・ダウン症等の障がいを持つ方が、自分らしく幸せに生活できるようサポートをしていきたいと思っています。時間を見つけて、福祉施設でボランティアをさせていただいているのですが、利用者の方とお話しをしたり、作業をしたりする時が、一番楽しくて幸せだと感じることができますので、そう思うようになりました。

社会福祉士の国家試験は、社会福祉原論、公的扶助論等十三の科目があり、六〇%の正解率と十三の全ての科目に得点するとい

うことが合格基準となっています。とかく目の前の合格だけを考えがちですが、そのためだけに勉強するのではなく、その先を見据えたしっかりと知識と教養を身に付けられるよう、社会福祉士にとって何が一番大切なことをよく考え、四年間で様々なことを学んでいきたいと思います。



基本介護技術の実技に取り組む受講生のみなさん

国際交流

台湾 長榮大学から留学生が来ました

日本語・日本文化研修プログラム（JCLP）を終えて

六月二十八日から七月二十五日の四週間、台湾・台南県にある長榮大学の日本語学科の一、二年生（十一名）と大学院生（四名）の計十五名の学生が、本学の日本語・日本文化研修プログラム（JCLP）に参加しました。長榮大学は、今年の三月に本学と学術交流協定を締結した大学ですが、このたび本学のJCLPを利用して、学生交流がさっそく実現しました。

プログラムの内容は、これまでのJCLPと同様に日本語の学習、日本事情の講義、日本文化の紹介とフィールドトリップで構成されています。参加した留学生は、大学近くのアパートを宿舎として、四週間通学しました。

日本語の授業では、本学の日本人学生と中国人留学生が補助として参加し、留学生をサポートしました。また、授業以外の時間にも会話パートナーとして留学生と交流しました。現在本学には台湾からの留学生が一人もいないので、本学の学生もこれらの活動を通じて、台湾の文化・社会を知るよい機会となつたようです。また、長榮大学の学生たちとメールアドレスを交換する学生もあり、日本、中国、台湾と国境を越えて、友情を育むことができたようです。

日本文化紹介では、茶道、生け花、剣道、和楽器を実際に体験し、日本文化に直接触れました。茶道では、長時間正座をしていて、足がしびれてしまつた学生もいま



大きな声を出して「メーン」

籠町のご家庭でホームステイを体験していました。ホームステイに行く前はとても緊張していた留学生でしたが、終了後は、みんな

分に楽しんだようです。
その他、一泊二日の日程で新発田市、聖籠町のご家庭でホームステイを体験しました。ホームステイに行く前はとても緊張していました。留学生がいましたが、終了後は、みんな

な声を出し、おもいっきり体を動かしていましたのが、とても印象に残っています。

また、フィールドトリップは、弥彦神社、北方文化博物館、みなとぴあなどの新潟市近郊と清水園、新発田城などの新発田市内観光、会津若松へのSL列車の旅のほか、聖籠中学校を訪問し、中学生と交流を楽しみました。村上大祭では、ゆかたを着て参加した女子学生もあり、出店や屋台山車（おしゃぎり）を見物し、日本の祭りを存分に楽しんだようです。

去る七月十六日に、「保護者との就職懇談会」が新潟グランドホテルで開催されました。当日は四十三組五十二名に及ぶ三年生の保護者のみなさまからご臨席を賜りました。今年度は、開催月を九月から七月へ、また開催時間を夕刻からお昼頃へ変更したこともあり、昨年より十一名も多くご出席いただきました。

第一部では、「進路指導としての就職指導の成果と課題」（就職委員長）、および「いよいよ進路は二つ 就職するかしないか」（就職指導室長）のテーマで講演を行いました。また、第二部では本学教員と保護者の方々との懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で日頃の学生生活や今後の就職指導などについて、意見交換がなされました。

保護者との就職懇談会

『出席された保護者の方々からのご感想』
大学生の就職活動は初めてのことですのに、分からぬことばかりです。お話しをお聴きして、改めてきちんと取り組まなければならぬと痛感致しました。これから親子でコミュニケーションを取りながら後悔のないよう進めて行きたいと思います。
親（自分自身の）の時代とはあまりに違う就職状況で、適切なアドバイスなどをできずになりました。ここまできめ細かく対応していただいていることを知り、感謝しております。

先生方の情熱が親にも伝わってきました。子供任せにするのではなく、親も共に勉強していく態度を示していくます（日経新聞読みます）。

国際交流



SL列車で会津若松へ

とても明るい表情で、ホームステイでの出来事を話してくれました。ホストファミリーのみなさまの暖かい心遣いと、触れあいは、留学生にとって、心に残るとても素晴らしい思い出となつたようです。

プログラム最終日は、大学でさよならパーティーを開催しました。ホストファミリー、本学学生、教職員など総勢六〇名ほどの関係者が出席のもと、本プログラムの修了証書がブラウン国際交流委員長から留学生一人一人に手渡されました。慣れない日本での生活に加え、アパートでの自炊生活で、ちょっぴりホームシックになつた留学生もいたようですが、多くの日本人と接したことであなたも上達し、実り多い留学となつたものと確信しております。

(国際交流係)

こうして、七月二十五日にプログラムの全日程を修了し、留学生は無事帰国しました。これからも、ますます長榮大学との交流が盛んになるように努力して行きたいと思ひます。

台湾生が家族の一員になつてくれたことで新しい発見や楽しい思い出が沢山できました。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

ホストファミリーを経験して

熊倉 佳子（新潟市）



英語英米文学科 四年
加藤 恵

台湾からの学生がホームステイに来られたと分かつたその日からわが家は台湾子たちは世界地図に興味津々。主人と私も留学生により多く日本のことを知つてもらおうと準備を始めたのですが、意外と知らない日本の文化。また台湾のこともある程度知つておかなければ日本独自の生活習慣などを教えることができないと思い、インターネットや書物を活用して日本のこと、そして台南のことをいろいろ調べました。

期待と不安の中、いよいよご対面！日本語がとても上手で不安がいっぱい消えました…というのもつかの間、台湾生の口から次々と出る素朴な質問にハラハラキドキ。日本人が正座をするこの意味、一つの神社に多数の神様が祭られていることの由来等々。主人と頭をフル回転させ質問に答え、分からることは関係者に尋ねたりしました。台湾生は日本様々なことに興味関心、疑問を持ち理解しようと勉強しています。日本の文化を教えるつもりが逆に台湾生から学んだように思います。

今回合格できた理由は、一度不合格になつたことでいい意味で開き直れたことと、やはり厳しかった就職活動を経験したこと大きかつたと思います。

最後にこの講座を合格するまで面倒見てくださった就職指導室ヒューマン・アカデミー新潟校の吉田先生に感謝申し上げます。

秘書技能検定試験の準一級に合格して

英語英米文学科 四年
加藤 恵

この度、念願の秘書技能検定（準一級）に合格しました。試験の内容は二級までと違い、準一級から筆記試験に加えて面接試験が行われます。筆記試験は一度不合格になつたものの二度目のチャレンジで何とか合格できましたが、私にとって大きな壁となつたのは面接試験でした。

面接試験は大学の入学試験以来受けたことがなかったので、私はかなり緊張していました。一回も不合格になつてしましました。準一級は筆記試験に合格すると二回まで筆記試験を免除されます。ですので、今回の面接試験で不合格になつてしまつと筆記から受験し直さなければならないという崖っぷちの状態でした。

今回合格できた理由は、一度不合格になつたことでいい意味で開き直れたことと、やはり厳しかった就職活動を経験したこと大きかつたと思います。

最後にこの講座を合格するまで面倒見てくださった就職指導室ヒューマン・アカデミー新潟校の吉田先生に感謝申し上げます。

《加藤さん準一級合格までの道のり》

二〇〇三年六月 一級試験合格

二〇〇四年六月 準一級（筆記）合格

二〇〇五年七月 準一級（面接）合格

リフレッシュ セミナー

第五回 中学校・高等学校英語科教員対象リフレッシュ・セミナーご報告

今年で五回目を数え、恒例となりましたリフレッシュ・セミナーが、去る七月三〇日、本学を会場として開催されました。昨年の一倍に近い約八〇名の参加者を迎えて、おかげ様で盛況のうちに終了しました。

今回は、「English for YOU」をテーマに、様々なニーズに沿った英語運用能力の向上に向けて、四名の講師がワークショップを受け持ちました。外山節子先生（「日本人教員に求められる英語の発音」）、ジョイ・ウリアムズ先生（「ジャズで学ぶイディオム」）、マーク・フランク先生（「自信のつくスピーキングスキル」）、マット・ミラー先生（「インターネットを使って、やさしく、楽しいリーディング」）は、創意工夫と熱意にあふれるワークショップを開催しました。猛暑の一日でしたが、参加者の皆さまからは、まさに「リフレッシュ」の場として活用いただけたようです。

- ・いつもほのぼのとした雰囲気につま
れながらも英語を磨けるなあとありが
たく思う。（高校教員）
- ・東京ではなく地元でも、優秀でやる気
のある先生方がたくさんいる。地元の
大学が文化の発信地になるよう期待す
る。（中学教員）
- ・このような教師自身の能力を鍛えるブ
ログラムは自分の襟を正すためのいい
機会になる。（中学教員）
- ・敬和がどれだけの教育力を持っている



多くの先生に参加いただき盛会でした

かをアピールする大切なチャンスだと
思うので、ぜひ続けてほしい。（高校
教員）

例年のように、多くの方々から暖かい励
ましと貴重なご提言をいただき、スタッフ
一同、力づけられております。

「参加者がすべてのワークショップを受
講できるように、時間、日数を増やしてほ
しい」等、今後のリフレッシュ・セミナー
のプログラム拡大を望むご意見も少なから
ずいただきました。皆さまの「要望を参考
にし、皆さまと共に学びあいながら、さら
に内実あるリフレッシュ・セミナーを創り
だしていただけたらと願っております。ご多忙
の中、ご参加いただいた皆さま、ならびに
講師の先生方に感謝申し上げるとともに、
今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

秋深まる十一月二十三日（祝）に新潟市
万代市民会館で、午前中は英語教育に関わ
つておられる先生方を対象に "The Creative
Classroom & Jazz Chants, Music and Poetry
in the Language Classroom"（「歌とチャ
ンツを使ってクリエイティブな授業を」）と
いう一時間のセミナーを、午後からは「キ
ヤロリンと歌おう」と題してコンサートを開
催します。午後の部は、音楽を聴くだけ
でなく一緒に歌ったりして、小さなお子さ
んから大人まで楽しめるコンサートです。
ご家族連れでどうぞお越しください。なお、
コンサートの収益金はグレアムさんの意向で、すべて「あしなが基金」に寄付され
ます。皆さまのお越しを、心からお待ちして
おります。

詳細のお問合せは、本学総務課（〇二五
四一六一三九四）までお願いします。

英語化プログラムセミナー
キヤロリン・ケントラ セミナー&
チャットイワカーテーのお知らせ

この度、英語教育におけるジャズ・チャ
ンツの開発者として著名なキヤロリン・グ
レアムさんを新潟にお招きする運びとなり
ましたことは、大きな喜びです。グレアム
さんはニューヨーク大学で英語を教えるか
たわら、ジャズバーでピアノを弾いておら
れるうちに、ジャズのリズムと北米英語の
会話リズムが似ていることに着目し、ジャ
ズ・チャンツを英語教授法に取り入れること
を提唱されました。今では彼女のジャ
ズ・チャンツシリーズは多くの人々に愛さ
れており、本学の外山教授の授業でもメイ
ンテキストとして活用されています。

秋深まる十一月二十三日（祝）に新潟市
万代市民会館で、午前中は英語教育に関わ
つておられる先生方を対象に "The Creative
Classroom & Jazz Chants, Music and Poetry
in the Language Classroom"（「歌とチャ
ンツを使ってクリエイティブな授業を」）と
いう一時間のセミナーを、午後からは「キ
ヤロリンと歌おう」と題してコンサートを開
催します。午後の部は、音楽を聴くだけ
でなく一緒に歌ったりして、小さなお子さ
んから大人まで楽しめるコンサートです。
ご家族連れでどうぞお越しください。なお、
コンサートの収益金はグレアムさんの意向で、すべて「あしなが基金」に寄付され
ます。皆さまのお越しを、心からお待ちして
おります。

秋のオープン・カレッジのご案内

好評でした春のオープン・カレッジに引き続き、一〇月から、本学会場および地元の聖籠町を会場にして、オープン・カレッジを開催します。

大学会場では、本学前理事、新潟大学名誉教授の真壁伍郎先生を講師にお迎えし、グリムの昔話から私たちの人生のドラマを読みとく三回連続の講座を開催します。同講座の三回目は、敬和祭と同日の開催となります。学生の展示や屋台などもお楽しみください。また、聖籠会場では、「いのち、ひと、生活」と題し、様々な視点から、人間にとって大切なことは何かを考えていきます。詳しい日程や申込方法は次のとおりです。皆さまふるってご参加くださいますよ。

（広報委員会）

聖籠町 「いのち、ひと、生活」

10月 4 日(火) 心の動きとコミュニケーション 益谷 真 教授
10月 18 日(火) 文学に見る作家の郷土性と生き方 若月 忠信 教授
10月 25 日(火) 高齢者社会がおしゃえてくれたもの 山崎ハコネ 講師
11月 1 日(火) 福祉の人間観—いのち、ひと、生活— 青山 良子 助教授

時 間：第1・2回 13:30～17:00、第3回 10:30～17:00
場 所：敬和学園大学
受講料：3,000円
申 込：敬和学園大学総務課（Tel 0254-26-2394）

※お申し込み・お問合せ

敬和学園大学教務課教務係
電話 ○二五四一六一五一四

（日時） 十一月五日（土）
十一時～十三時三〇分
（会場） 敬和学園大学

みなさまにご来臨賜りますようお願いいたします。なお、この懇親会の費用は後援会で負担いたします。

計 報

本学名譽教授片桐邦郎先生が去る七月五日にお亡くなりになりました。（七十九歳）本学元助教授齋藤祐介先生が七月十日にお亡くなりになりました。（四十八歳）

お悔やみを申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

寄付者ご芳名

恒例となりました「一二年生保護者のみなさまを対象とする「保護者との懇談会」を本学後援会との共催で開催いたします。

会は一部構成で行い、一部では保護者のみなさまに本学の教育内容についてのご理解を深めていただきたいと考え、新井明学長と上野恵美子教務部長が「敬和学園大学の教育方針について」と題し、お話しします。また、引き続き行われる第二部は、懇親会形式により、保護者のみなさまと常日頃アドバイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や学生生活などについてお話し合いしていただく予定しております。

本学の特色の一つとして、学生と教員の距離が近いことがあげられます。この機会にぜひとも本学教員とお話ししていただき、大学でのお子さまの活動について更なるご理解をいただきたいと考えております。ご多忙なことと存じますが、保護者のみなさまにご来臨賜りますようお願いいたします。なお、この懇親会の費用は後援会で負担いたします。

一九九二組 長谷川 義水
一九九五組 岩村 忠輔
新井 明4
河上 正義
村上 毅
鷹澤 昭一
鷹澤 信子
田村 賢雄
清光書店
オレンジ会
敬和学園大学後援会

本学にお寄せくださった皆さまのご支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。

第十五回 敬和祭の「」案内

地域のみなさまの暖かいご支援により、今年で敬和祭は十五回目を迎えます。今年のテーマは「Peace & Unity～平和・調和・敬和～」です。このテーマは、学生たちの結束と調和を示す“Unity”に、すべての人の願いである「平和」を盛り込むことで、この敬和祭から世界に向けて「平和と調和」を広げたいという思いからつけました。

十月二十一日（土）には、今年で二回目の「ミュージック・フェスティバル in Keiwa」、二十三日（日）には、「Dear Loving」他のライブと、プロ顔負けの演出が見もの、学生ライブ、骨髓バンクドナー登録会があります。その他、学生団体による屋台やゼミの教室展示、フリーマーケットなど盛りだくさんの内容です。

また、敬和祭に合わせて十月二十三日には、本学としては初めての「外国语スピーチ・コンテスト（国際文化学科主催）」や、本学人文社会科学研究所主催の講演会「北の玉器文化～よみがえる中国・紅山文化（徐子峰先生）」、これから進学をお考えの高校生ならびに保護者のみなさまに大学講義等を体験していただく「オープンキャンパス」も開催され、敬和祭を盛り上げます。日頃のみなさまへの感謝の気持ちと学生たちの活動の成果を披露し、地域のみなさまに敬和祭を充分楽しんでいただきため、実行委員が一丸となり、準備をすすめています。お友達とお誘い合わせの上、お気軽に遊びに来てください。お待ちしております。

（敬和祭実行委員会）



昨年度の敬和祭の様子

第15回敬和祭のスケジュール

月	日	時 間	企 画
10月21日(金)		13:00~16:30	敬和ふれあいバラエティ
10月22日(土)		12:30~15:00	ミュージック・フェスティバル in Keiwa
		10:00~16:00	茶道部茶会
		11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
		11:00~16:00	フリーマーケット
10月23日(日)		11:00~15:20	骨髓バンクドナー登録会
		11:00~16:00	屋台模擬店・教室展示
		11:00~16:00	フリーマーケット
		11:30~14:00	FMしばた生中継・収録
		12:00~17:30	学生ライブ
		14:00~16:00	「Dear Loving」他ライブ

学事予告

十一月

月

十一月	二十日	大學オーブン・カレッジ① 聖籠町オーブン・カレッジ① 教養リフレッシュ・リトリート 本丸中学校職場体験（十三日まで） 十五周年記念講演会
十一月	二十一日	聖籠町オーブン・カレッジ② ふれあいバラエティ
十一月	二十二日	敬和祭（二十三日まで）
十一月	二十三日	大學オーブン・カレッジ③ 外国语スピーチ・コンテスト 人文社会科学研究所主催講演会 オープニング・キャンパス③
十一月	二十五日	聖籠町オーブン・カレッジ③ 人文社会科学研究所主催講演会 オープニング・キャンパス③
十一月	二十六日	聖籠町オーブン・カレッジ④ 一年生保護者との懇談会 人文社会科学研究所主催講演会 企業との就職懇談会
十一月	二十九日	推薦 帰国子女、編入（二期）、 聖籠町オーブン・カレッジ④ 社会人（二期）入試
十一月	三十日	聖籠町オーブン・カレッジ④ 一年生保護者との懇談会 人文社会科学研究所主催講演会 企業との就職懇談会
十一月	二十七日	キヤロリン・グレアムセミナー &チャリティコンサート 推薦 帰国子女、編入（二期）、 社会人（二期）合格発表
十一月	二十八日	TOEIC公開試験
十一月	二十九日	高校大学合同クリスマス研修会
十一月	三十日	高校大学合同クリスマス行事
十一月	二十六日	クリスマス行事
十一月	二十三日	冬期休暇（一月五日まで）

キャンパス日誌

7月

- 1日 教育実習反省会（写真）
チャペル・アッセンブリ・アワー⑩
説教 延原時行 宗教部長 「史上最大の激励」
講演・自主映画上映 映画監督・社会福祉士 鈴木貴之
「明日はもっといい日」（写真）
- 6日 敬和ボランティア・デイ（15施設訪問）
新潟市豊栄地区オープン・カレッジ⑤
講師 五十嵐海理 専任講師
「比喩とことわざの言語学」
- 7日 新発田市オープン・カレッジ④
講師 房文慧 助教授
「ポスト京都議定書をどう生かす」
- 8日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑪
説教 新井 明 学長 「花には水を」
講演 台湾・長榮大学短期留学生
「JCLP短期留学生スピーチ」
- 12日 補講日（～15日）
- 13日 教授会
新潟市豊栄地区オープン・カレッジ⑥
講師 山田耕太 教授
「魂のコミュニケーション」
- 14日 新発田市オープン・カレッジ⑤
講師 福王 守 助教授
「日本における外国人の受け入れについて」
- 16日 前期講義終了
保護者との就職懇談会（3年生保護者対象）
於 新潟グランドホテル
まちの駅講座 食とコミュニケーション
「食育とイングリッシュ」
講師 マーク・フランク 契約講師
- 19日 前期末試験（～29日）
- 21日 新発田市オープン・カレッジ⑥
講師 大野 元裕（財）中東調査会上席研究員
「イラクとアメリカ」（写真）
- 23日 長榮大学JCLPさよならパーティー
- 26日 共生社会学科社会福祉国家試験対策講座
- 28日 理事会
- 30日 第5回中学校・高等学校英語科教員対象リフレッシュ・セミナー



31日 オープンキャンパス②（168名）

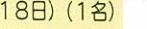
夏期休暇（～9月21日）

アングロ・コンチネンタル英語学校

夏期短期留学出発（～9月5日）（1名）

8月

- 1日 前期集中講義（～5日）
訪問介護員2級養成講座（～9月20日）
- 4日 新潟県大学図書館協議会（写真）
- 8日 中国・湛江師範大学郭学長ほか3名本学表敬訪問（写真）
就職対策講座（～9日）
- 10日 AFT色彩検定（2・3級）対策講座①②（～11日）
- 17日 販売士検定（3級）講座①（～18日）
ノースウエスタン大学長期留学出発（～12月18日）（1名）
- 18日 職員研修会
- 19日 職員研修旅行（～20日）
World 検定試験準備講習会（～26日）



9月

- 1日 中国・黒龍江東方学院との教育交流協定締結（写真）
(中国ハルビン 黒龍江東方学院にて調印式)
AFT色彩検定（2・3級）対策講座③④（～2日）
- 2日 前期再試験
- 4日 World 検定試験
- 5日 教育実習事前指導妙高宿泊研修
於 国立妙高少年自然の家（～7日）
Excel 検定試験準備講習会（～9日）
- 7日 前期追試験（～8日）
- 13日 AFT色彩検定（2・3級）対策講座⑤⑥（～14日）
- 14日 教授会
- 15日 福祉住環境コーディネーター講座①②（～16日）
- 18日 Excel 検定試験
- 19日 オープンキャンパス③（112名、写真）
- 20日 AFT色彩検定（2・3級）対策講座⑦
- 21日 前期卒業式（9名）
- 22日 福祉住環境コーディネーター講座③
履修相談日
- 26日 後期講義開始
履修登録期間（～10月1日）
- 30日 チャペル・アッセンブリ・アワー⑫
説教 新井 明 学長 「ハルビンにて」



KEIWA チャレンジ学生ファイル⑫



国際文化学科 4 年

長谷川 幸子

『出会いがつくれた思い出』

大学に入学して間もないころ、福王先生のご紹介で二学年上の先輩たちと出会いました。そして、先輩からの熱心な勧誘もあって、旅部というサークルに入部しました。はじめは名前と顔を覚えることで精一杯でしたが、そのうちに気のいい先輩たちに囲まれて何でも話せるようになりました。男女 20 名くらいのメンバーはみんな仲がよく、一人一人が忘れられない存在です。そして彼らと過ごした旅部の活動は、私にとって学生生活で一番の思い出となりました。

「学生生活を充実させるために、学生のうちにしかできないことをしよう！」という目標を元にできたこのサークルでは、夏休みにみんな揃って県外へ旅行に行ったり、学内スポーツ大会へ出場したり、敬和祭に屋台を出店したりしています。旅行は、ペンションを借りて、車 3、4 台に分乗して行くことでコストを抑え、蔵王や那須高原に行きました。古くてボロボロのペンションに泊まても、掃除班と夕食作り班に分かれて作業し、夜は恒例のおしゃべりで過ごしました。そうやってみんなで同じ時間を過ごせたことが何より楽しかったです。

そのほかにも、大学の休講日などに日帰りで温泉やおいしいものを食べに行ったり、Team ECOボランティアに参加したり、バーベキューや飲み会をしたりしています。入部したときの先輩たちが卒業してから二年が経ち、私も卒業の年となりました。社会に出る前に、かけがえのない仲間と楽しい学生生活の思い出を作ることができて本当によかったです。

敬和学園大学
www.keiwa-c.ac.jp



ケタ付